

【提出意見】

池 俊介（早稲田大学）

■ 論点（1）について

現実社会から学習課題をとらえるための活動として地域調査を含むフィールドワークがきわめて重要だと考えます。その場合に、小・中・高校を通じて地域調査をどのように進めるかが課題となりますが、井田委員が述べられたスパイラル的な地域調査のあり方についての検討が必要であるように思います。「地域調査」といっても内容・方法や設定する課題は多様ですが、小・中・高校のそれぞれの発達段階を考慮しながら小学校から高校までの長いスパンで地域調査の進め方を検討することが重要だと思います。そして、こうした作業は結果として内容の精選にもつながるように思われます。また、小学校では現行学習指導要領で「身近な地域」よりも「自分たちの市」に関する学習が重視されるようになった影響からか、身近な地域を対象としたフィールドワークの実施率が低下する傾向にあることが既に指摘されており、この点についても改善の余地があるように思います。さらに、鈴木委員が述べられたように、中学校・高校において地域調査を実施して頂くためには、多くの先生方が地域調査を実施できるような手立て（条件整備）についても併せて検討する必要があるかと思っています。

また、児童・生徒の世界像の形成に深く関係する学習として、中学校・高校では世界地誌に関する内容等が位置づけられていますが、小学校では「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の様子」について 6 学年で学習するのみであり、小学校の世界に関する学習のあり方についても検討する必要があると思います。

■ 論点（2）について

「見方・考え方」を学習指導要領の中で明確に分かりやすく示すことは重要だと思いますが、「見方・考え方」についての理解がなかなか進まない原因の一つは、大項目や中項目の具体的な学習内容と「見方・考え方」との関係が見えにくい点にあるように思います。その点についても議論の余地があるように思います。